

## 建築学教室創立 95 周年記念行事報告（1）

### 全体報告

竹脇 出（昭和 55）

1920（大正 9）年 8 月 18 日に創設された京都大学工学部建築学教室は、本年 2015（平成 27）年に創立 95 周年を迎えました。1990（平成 2）年に創立 70 周年記念行事を催して以降 5 年ごとに創立記念事業を行ってまいりましたが、今回も 90 周年に引き続き 95 周年を記念する式典を開催する運びとなりました。

この間建築学教室は、高い水準の教育・研究を行い、多くの優秀な人材を育成し、生活の質を高める建築や都市の創造に大いに力を尽くしてきました。しかし、21 世紀を迎えた今日、地球環境問題をはじめ、これまで人類が経験したことのない多くの問題が露見しており、建築学教室における教育研究の在り方が鋭く問われています。また、大学教育の改革という言葉が以前にも増して新聞等で目にする機会が増えたようにも思われます。学内では 2004（平成 16）年 4 月に大学が法人化され、次いで同年 9 月に建築学専攻、2006（平成 18）年 9 月に都市環境工学専攻（建築コース）が桂キャンパスへ移転し、併せて吉田キャンパスでも 2005（平成 17）年春に、主に 3 回生以下の学部教育を行う講義室・製図室等が工学部 7 号館（以前の建築新館）から工学部 3 号館北棟に移りましたので、研究・教育環境も大きく変化してきました。

こうした状況の変化に対応するためには、大学の教員、学生、社会の中で活躍している同窓生が協働して、建築の研究・教育のあり方を問い直していく必要があると考えます。そのような協働の契機となることを願い、創立 95 周年記念行事として、京大建築会総会・シンポジウム・祝賀懇親会、及び卒業設計作品展を開催することにしました次第です。

本稿では今回の記念行事の全体報告をさせていただきます、続いてシンポジウム・卒業設計作品展についてもまとめを掲載致します。京大建築会の会員の皆様に、記念行事の内容をなるべく詳しくお伝えすることにより、「大学教育における社会連携と京大建築会の役割」、さらには「京大建築学教室における教育・研究の将来像」について、共に考えていただくことができ

れば幸いです。

#### ■ 記念行事の概要

2015（平成 27）年 9 月 12 日（土）に、京大建築会総会・シンポジウム・祝賀懇親会・卒業設計作品展を京都大学百周年時計台記念館において実施しました。

直前に台風が日本に接近・通過したこともあり、心配しましたが、12 日当日は、気持ちの良い青空が広がり、全国から総計 350 名を越す多数の会員にご参集いただき、建築学教室の歴史を振り返り、未来を展望する機会を持つことができました。ご参加いただきました会員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。



#### （1）京大建築会総会

建築会総会は、吹田啓一郎教授（昭和 57）の進行により、13:30～14:00 に京都大学百周年時計台記念館 2 階の国際交流ホールにて開催しました。

まず、創立 95 周年記念事業実行委員会委員長の竹脇から、本稿冒頭に記しました趣旨を説明し、開会挨拶を述べさせていただきました。そ

の後、松浦邦男建築会会長（昭和 27）からご挨拶を頂戴することになっていましたが、ご体調がすぐれずやむを得ずご欠席されることが高田光雄副会長（建築学科長 昭和 50）から報告されました。

## 工学部建築学教室創立95周年記念総会・シンポジウム



次いで、門内輝行常任委員長（昭和 48）から、常任委員会報告として、1990（平成 2）年に故横尾義貫会長（昭和 14）の発意により、中村恒善名誉教授（当時は教授）（昭和 31）が実行委員長として指揮をとられ、京都支部の支援のもとに創立 70 周年記念行事が開催されたこと、以降 5 年に一度創立記念行事を開催するに至ったことなど、建築会の歴史を画するお話をいただきました。併せて、2006 年に設立された京都大学同窓会や京都大学工学部同窓会（現 京都大学工学系同窓会連絡会）との関係についてもお話をいただきました。

その後、高田光雄副会長から、京大建築会規約と一般規則の改正が提案され承認されました。規約の方は事務的な文言に関するものであること、一般規則の方は、第 2 条の準会員の資格に関するもので、本年 3 月から建築学科、建築学専攻の学生のみとなったことによる改正であることの説明がありました。

同じく高田光雄副会長から、支部長会議において規約に従い新会長に金多潔名誉教授（昭和 28 旧）を推薦する提案が承認されたことについて報告があり、総会でも満場一致で承認されました。

最後に、西山峰広（昭和 57）建築学専攻長から、教室近況報告、建築会報告がありました。建築系専攻では、1991（平成 3）年に建築学・環境地球工学、1996（平成 8）年に建築学・生活空間学・環境地球工学、2003（平成 15）年に建築

学・都市環境工学（建築コース）と再編が続いてきましたが、2010（平成 22）年より、建築学専攻に統合されたことが報告されました。また現在、建築学科の定員は 80 人、建築学専攻の定員は修士課程で 72 人、博士課程で 24 人ですが、最近女子の占める割合が増加しており、本年 4 月の学部新入生には 15 名の女子学生が在籍していることが紹介されました。

### （2）シンポジウム

引き続き 14:00～15:30 に、シンポジウムを開催しました。テーマは「大学教育における社会連携と京大建築会の役割」です。そのねらいは、創立 85 周年記念シンポジウムのテーマ「建築教育のビジョン—大学と社会の連携」および創立 90 周年記念シンポジウムのテーマ「建築の教育・研究のビジョン—プラットフォームの構築」を継承して、研究・教育のあり方を再考し、京大建築学教室における教育・研究の課題と将来展望、さらには京大建築会が果たす役割について考えるところにあります。

パネリストは、三輪昭尚（大林組取締役専務執行役員、京大建築会関東支部長、昭和 49）、武井佐代里（国土交通省（現）川崎市役所市街地開発部長、平成 3）、義江龍一郎（東京工芸大学工学部長、昭和 59）、平田晃久（京都大学准教授、平成 6）、岡崎太一郎（北海道大学准教授、平成 6）に、コーディネータは原田和典教授（昭和 59）にお願いしました。

今日、大学教育の「見える化」を求める社会的圧力は年々強くなっており、教育のグローバル化も以前にも増してその必要性が叫ばれています。大学教育の改革を巡る一連の動向を議論し、将来に向けた教育システムの構築へ向けて、大学教育の社会連携という軸から京大建築会の役割について議論をしてみたいと考え、このようなシンポジウムを企画しました。詳細については、行事報告（2）をご覧ください。

### （3）祝賀懇親会

祝賀懇親会は、神吉紀世子教授（昭和 64）を進行役として 16:30～18:00 に同会場で開催しました。

最初に金多潔新会長から、祝賀懇親会の開会挨拶をいただきました。1920 年に京大建築学教

室が創設された時の少数の教員陣容および学生定員から、現在では日本を代表する最大規模の教室へと発展したことの説明や、東京スカイツリーやあべのハルカスの構造設計の中心を京大建築学教室 OB が果たしたことなどをお話いただきました。



次いで、小宮山俊朗京都支部長（昭和 46）からご挨拶をいただき、会長・副会長・京都支部長・実行委員長が登壇して恒例の鏡開きを行いました。酒樽を割る槌音とともに、芳ばしいお酒の香りが漂い、華やかな記念懇親会の幕開けとなりました。



鏡開きに続いて、西川幸治名誉教授（昭和 29 新）に乾杯のご発声をいただき、会場は大変賑やかな懇親の場となりました。

最も人数の多いときには、約 350 名を越す同窓生が一同に会していましたので、広いはずの会場がかなり狭く感じられました。京大建築会の会員数は 5000 人弱ですから、相当数の会員にご参集いただいたこととなります。

多士済々の皆様方のお姿から、京大建築会のネットワークの潜在力を実感することができましたし、それ以上に、お集まりいただいた方々に多種多様なコミュニケーションの場を提供で

きたことは、誠に悦ばしいことでした。



懇親会では、学科長、専攻長、支部長等から近況報告を行っていただきました。京大建築会の社会連携を考える上では、支部長の果たす役割は極めて大きく、今後も建築学教室との緊密な連携へのご尽力をお願いしたいと考えております。

また終盤では、京都大学総長、京都大学工学研究科長（工学部長）、日本建築学会会長（中島正愛教授 昭和 50）、日本建築家協会会長、日本建築士会連合会会長、日本建設業連合会会長から頂戴した祝電を神吉紀世子教授に披露していただきました。祝電の一例をご紹介します。

「京都大学工学部建築学教室創立九十五周年を心よりお祝い申し上げます。優れた建築・都市の創造に貢献してこられた教育研究活動に敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。 京都大学総長 山極寿一」

最後に、実行委員長である竹脇が、記念行事への参加者、発起人、パネリスト、京大建築会役員などへのお礼と、5年後の 100 周年記念総会への期待と支援依頼を述べ、懇親会を閉会しました。

#### （４）卒業設計展

懇親会場の東側の壁面沿いに、最近の卒業設計作品の一部をパネル展示し、設計教育の成果の一端をご覧いただくようにしました。2006（平成 18）年度から、『卒業設計作品集』の刊行を開始していますが、創刊号の刊行は、創立 85 周年記念事業による寄付金によって可能になったものであります。

京都大学の卒業設計が全国的に見て大変高い水準にあることは、毎年仙台で開催されている「卒業設計日本一決定戦」で、本学学生の作品が多数受賞していることからよく知られるところとなっています。この報告は創立 90 周年記念事業においてもありました。今回も創立 90 周年記念事業に引き続き、卒業設計作品の代表例と最近の設計教育のカリキュラムをご覧ください。詳細については、行事報告(3)をご覧ください。



### ■ 記念行事の準備・実施

ここで、創立 95 周年記念行事の準備、及び実施について記しておきたいと思います。

実行委員長としての最初の仕事は、記念行事の会場を決めることでした。創立 85、90 周年記念行事と同様に京都大学百周年時計台記念館が候補として上がりましたが、百周年記念ホールが耐震改修で使用できないことがわかり、2階の国際交流ホールを全面的に使用することにしました。京都大学百周年時計台記念館は人気が高く、通常は1年前からしか予約ができません。しかも1年後の当該日には多くの予約者が並ぶことが予想され、予約をとることが難しいことがわかりました。結局、当時の松本紘総長に書面で依頼し、同窓会活動の重要性の観点から特別に予約を認めていただきました。2014(平成26)年4月23日に時計台記念館に出向き、2015(平成27)年9月12日(土)の予約をとることができました。

実際の記念行事の準備は、実行委員会を組織し、4月～9月にかけて準備を進めました。実行委員としては、原田和典教授に副委員長をお願いし、吹田啓一郎教授、神吉紀世子教授、田路

貴浩准教授(昭和61)、吉田哲准教授(平成4)、小椋大輔准教授、大谷真准教授(平成11)、谷昌典准教授(平成13)、藤田皓平助教(平成19)に委員をお願いし、さらに乃村八千代さん、藤本貴美さんに煩雑な事務をご担当いただきました。また、前田昌弘助教(平成16)には会場関係でも尽力いただきました。

実行委員会では、最初に学年別に発起人推薦人を選び、発起人の推薦をお願いし、最終的に550人を超す方々に発起人をお引き受けいただくことができました。この間、総会・シンポジウム・祝賀懇親会・卒業設計展の企画を立案し、7月に発起人名簿とともに「京都大学工学部建築学教室創立九十五周年記念 京大建築会総会・シンポジウム・祝賀懇親会等のご案内」を全会員に送付しました。

9月になると、准教授・助教の先生方にお手伝いに関する説明会を開催し、式典当日には学生を含む多くの方々に多岐にわたる役割を担っていただきました。また、小宮山俊朗京都支部長には、何かとお心遣いをいただき、鏡開きの酒樽の手配もお願いしました。

これらの方々のご尽力に対して、記して厚くお礼を申し上げます。

ここで、創立95年記念事業の会計報告をさせていただきます。収入は、358名の会費納入を中心に3,559,000円でした(実際には380名以上が出席されましたが、これはシンポジウム・見学会のみの参加者、お手伝いの学生を含む人数です)。それに対して支出は2,975,437円でしたので、583,563円の黒字となりました(黒字分は京大建築会会計に繰り越しとさせていただきます)。詳細は下記の表の通りです。

最後になりましたが、好天にも恵まれ、本当に多くの京大建築会の会員にご参集いただき、建築の研究・教育の課題や将来像を語り合い、旧交を温め、様々な出合いを促す場を持つことができましたことに対して、実行委員長として深く感謝申し上げます。

95周年記念行事 収支報告書

平成 27 年 10 月

収入総額	¥3, 559, 000	
支出総額	¥2, 981, 308	
差引残高	¥577, 692	(京大建築会会計へ繰越)

収入の部		支出の部	
会費			
郵便振込み (249 名)	2, 476, 000	会場費	249, 480
当日入金 (109 名)	1, 083, 000	印刷費	459, 693
@在學生 (博) ・ 同伴者 3000		通信費	81, 180
		学生謝金	346, 000
		懇親会料理	1, 306, 607
		消耗品 (設計展用等)	494, 127
		その他	44, 221
		京大建築会へ繰越	577, 692
	3, 559, 000		3, 559, 000